

第17回関東学生クラブ選手権大会の概要

東日本エリアの学生クラブ選手権大会は、前身の東京都学生クラブ選手権大会の時代から通算して今年で23年目を越えました。従来からこの大会は、単に覇を競うだけが目的ではなく、大会を通じて学生クラブの組織力・運営力、マナーの向上・ラグビースピリットの涵養など、学生クラブの地位向上を旨とする大会として開催されてきました。この基本方針をさらに推進し、正月に瑞穂で開催される「地区対抗大学大会」への出場権を賭けた関東地区予選としての位置付けを一段と鮮明にする大会とします。

学生クラブ選手権は、参加チームによって、運営されています。各試合の運営には、コラボレーションとして、試合のないチームが当たっています。「自分たちの手で作る大会」という意識を持ちましょう。

<大会参加に当たっての条件整備>

1. 選手資格の変更

関東学生クラブ選手権大会の選手資格は、一昨年度から変更になっています。これは、円滑な大会運営と同時に、ラグビーの基本である『安全』に重点を置くためのルールです。

- ① 大会参加に当たっての選手登録数の最低人数は、従来どおり1部=30名、2部以下=25名です。しかし、クラブ委員会の事前承認を得た上で、以下の特例を認めます。
- ② 社会人チームに加入している学生身分の選手のゲスト登録が可能です。例えば、東京都クラブ選手権大会にエントリーした社会人クラブチームに所属する「学生」は、個人登録はそのまま、この関東学生クラブ選手権大会への選手資格を認めます。選手登録用紙の個人登録番号欄に、そのチーム名と個人登録番号を記載してください。
- ③ コンバインド・チームでの参加も可です。自チームだけで1チーム編成することができないクラブは、他のチーム(クラブ・体育会いずれでも可)と合同チームを組んでの大会出場が可能です。チーム名の表示は、2つを並べて表記できます。メンバー数の少ないチームにも、年に1回の緊張感ある公式戦への途を開きます。
- ④ 他方、選手登録の人数制限(40名)を撤廃します。1チーム何人でも登録できます。登録用紙の40名の枠を超えて記載する場合には、本紙をコピーしてお使いください。

2. 監督・コーチ制度

この大会へ出場するには、監督・コーチ(名称を問わず)等の社会人の責任者が統率するクラブ組織であることが求められます。また、各チームには必ず「新スタートコーチ」資格所有者が所属していること。大会前には「監督・コーチ会議」が開催され、学生クラブの抱える様々な課題に対応して行きます。監督・コーチ会議に期待される役割は大きいといえます。なお、監督・コーチは、地区対抗大学大会への出場資格要件です。

3. 帯同レフリー

2004年から施行の「日本協会規約」では、傘下チームは必ず1名以上の公認レフリーを養成すべき義務が宣明されました(第70条8項)。公式大会出場に当たっては、公認レフリーの帯同が義務化されています。まだ公認レフリーを養成していないクラブは、学生レフリー候補者を最低1名選出したうえで大会に参加してください。当面は自チームの試合時のタッチジャッジに起用して育成を計ります。学生チームは毎年メンバーが入れ替わりますので、年度ごとに新たな候補者を選出してください。クラブ委員会に設けたレフリー発掘小委員会が策定した「発掘・育成プログラム」に沿って実施します。

<大会のシステム>

1. 地区対抗学生クラブ予選の方式

関東学生クラブ選手権大会の覇者には正月開催の「全国地区対抗大学大会」への出場を賭けた学生クラブ予選への出場権が確保されています。その学生クラブ予選は、全ての出場チームにチャンスを保障する趣旨からフリーエントリー制を採用しています。

1~4部の区分に関わりなく地区対抗への出場意思と意欲のあるクラブによって争われます。本年度は7チームのトーナメント方式で実施されます。

2. 大会システム(1~4部)と真田洋太郎杯

大会の1~3部は、6チームごとのリーグ戦で実施します。4部(昨年実績及び新規参加チーム)は、参加申込チーム数によって、リーグ戦もしくはトーナメント戦により実施します。各部相互間は、それぞれの上位2チームと下位2チームとの間で「チャレンジマッチ(=入替戦)」を実施したうえで次年度入れ替わります。自動入替(昇格/降格)はありません。

1~3部は6チームが総当たりすることで競技力のアップを計ると同時に、リーグ戦を勝ち抜くには競技力を支える選手層の厚さやチーム運営力・組織力など総合的な力が求められます。

なお、学生クラブの地位向上と大会発足に多大なる貢献をされた初代のクラブ委員長・故真田洋太郎氏の遺徳をしのび、関東学生クラブ選手権大会にその名を冠し、長く顕彰することとなりました。

3. サンケイスポーツセンターを主会場に

ここ数年、学生クラブのOB諸兄が学生のために奔走されて、三郷市の<サンケイスポーツセンター>内に新しくラグビー専用グラウンドができました。大会は、このサンケイスポーツセンターを中心に開催されます。学生クラブの皆さんにとっては、「OUR GROUND」が実現したことになります。また、駒沢補助競技場、熊谷、ちはら台等々も使用します。

4. サンケイスポーツに結果掲載

大会の各節ごとの結果は、翌日のサンケイスポーツ紙に掲載されます。自分たちの出場する試合結果がスポーツ紙に載ることで、選手のモチベーションは飛躍的に向上しています。

この大会は学生「クラブ」の大会です。サークルや同好会の大会ではありません。「クラブ」だからこそ、看板を背負って立つのではなく、「自己の名誉」を賭けて戦うのです。そういう趣旨を理解し、実践する学生クラブのみに参加資格があります。出場する学生ラグメンの「情熱と誇り」に期待しています。

関東学生クラブ選手権大会 実施要項

1. 名称 第17回関東学生クラブラグビーフットボール選手権大会、
兼、第60回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会・関東2区代表決定戦
2. 主催 関東ラグビーフットボール協会
3. 主管 埼玉県ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、
千葉県ラグビーフットボール協会、東京都ラグビーフットボール協会
4. 日程 2009年9月～12月
サンケイスポーツセンター、駒沢補助球技場、熊谷ラグビー場、荒川球技場、八幡球技場、市津、
慶應日吉、その他
5. 参加資格
 - (1) 2009年4月1日現在、各都道府県ラグビーフットボール協会に「チーム登録」された学生チームとする。
メンバー全員が学生(大学院生含む)で構成されていること。コンバインドチームでの参加を認める。
 - (2) 昨年度の全ての公式大会で、棄権、不戦敗もしくは失格したチームの参加は認めない。
 - (3) 過去に未登録の選手を偽って出場させたチームないし選手も同様とする。
 - (4) 1部は30名、2～4部は25名以上の選手が登録されていること。
 - (5) 各クラブとも社会人の監督ないしコーチ(学生不可)が統率しているチームであること。
 - (6) 参加チームは、協会規約をはじめ法令遵守の義務を有する。
6. 選手資格
 - (1) 本大会の選手資格は、財団法人日本ラグビーフットボール協会「日本協会規約」、及び、その他の施行細則に抵触しない者とする他、以下の特則に服する。
 - (2) 選手は満18歳以上の学生とし、高等学校在学中(定時制を含む)の者の参加は認めない。
 - (3) 2009年8月20日までに本大会へ出場する所属チームから日本協会へ競技者個人登録を完了した者に限る。
 - (4) 本年度の日本選手権大会(大学・社会人・クラブ等全てのジャンルを含む)につながる都道府県大会ないし地域大会で、既に一つのチームから選手登録された者は、前項の登録期限に関わらず、移籍して他のチームから本大会へ選手登録することは出来ない。
 - (5) 他のチームとの二重登録は認めない。
 - (6) 財団法人スポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」に加入していること。
 - (7) 外国籍の選手(特別永住権が認められた在日外国人を除く)の出場制限は本クラブ大会にはないが、上位大会へ出場した場合、「日本協会規約」の規制を受ける。
 - (8) 本大会の選手資格に疑義がある場合には、関東ラグビーフットボール協会クラブ委員会に於いて裁定する。
7. 競技方法
 - (1) 大会は、1部、2部、3部、4部分かれて、優勝チームを決定する。
 - (2) 地区対抗代表決定戦は、フリーエントリー制で実施する。
 - (3) 組み合わせ方法、各ブロック間の入れ替え方式は大会実行委員会が別途定める方式に従って実施する。
8. 競技規則
 - (1) 2009年度財団法人日本ラグビーフットボール協会制定の「競技規則」による。
 - (2) 試合時間は40分ハーフとする。但し、4部は35分ハーフとする。
 - (3) リーグ戦の順位決定は、勝ち点制を採用する。全試合終了時点で、勝ち点の多い順に順位を決定する。
詳細は、大会実施規約で定める。
 - (4) トーナメント戦で、規定時間内に勝敗が決しない場合には、以下の基準で上位進出権を決する。
 - ① トライ数の多いチーム。
 - ② トライ数が同じ場合には、トライ後のゴール数が多いチーム。
 - ③ 上記の方法で決することができない場合には抽選で決める。
 - (5) 試合中ノンコンテストスクラムが発生した場合、勝敗は得点どおりとする。
 - (6) 決勝戦で同点の場合には両チーム優勝とする。但し、上位大会への出場を決める場合には、上記(4)項の基準による。

9. 罰 則

- (1) 参加資格を偽った場合、選手資格のない者が出場した場合には、その時点で失格とし、本年度のすべての公式大会への出場を認めない。不戦敗ないし棄権したチームも同様とする。
- (2) 未登録の選手ないし他チームに登録された選手を偽って出場させた場合（いわゆる替え玉等）には、以後すべての公式大会から排除する。
- (3) その他、スポーツマンシップに反する行為があった場合は上記（1）を適用する。
- (4) いずれの場合にも事実発生時の相手方チームを勝者とし、それ以前のものには触れない。
- (5) 出場チームはその所属するチームの応援団の行為についても責任を負うものとする。
- (6) 本大会で生じた不規律に関しては、チームないし選手に告知聴聞の機会を与えた上で、大会規律委員会で処分を決する。

10. 顕 彰

- (1) 各リーグとも優勝および準優勝チームを表彰する。1部リーグ優勝チームには、賞状、関東ラグビーフットボール協会長杯、オーストラリア大使杯、及び真田洋太郎杯を授与し、準優勝チームには賞状を授与する。
- (2) 本大会での成績を基に、チームマナー、クラブの組織力、運営力などを総合勘案して、第60回全国地区対抗大学大会・関東2区代表決定戦、および第8回東西学生クラブ対抗試合の出場チームを選定推薦するものとする。

11. 参加料

- (1) 大会参加料＝30,000円（代表者会議に於いて徴収）
- (2) 試合ごとに各グラウンドで試合経費を徴収する。
- (3) 試合中に発生した負傷等の医療費は、各自の負担とする。
- (4) 既納の参加料及び諸費用は、いかなる事由でも返還しない。

12. チーム競技委員の選出

- (1) 各試合ごとにチームから「チーム競技委員」を1名選出すること。試合当日チームを引率し、大会運営が円滑に行えるよう行動する。
- (2) 出場チームは、有資格のメディカル・サポーターを必ず帯同させなければならない。
- (3) 出場チームは、公認レフリー（学生候補者）を必ず帯同しなければならない。

13. 大会申込方法

- (1) 参加チームは所定の参加申込書を作成し、下記の提出物全て（欠けた場合は受付けない）を、締切日（遅れた場合も受付けない）までに郵送すること。選手登録の数の制限はない。
- (2) 各チームは連絡担当者のメールアドレスを必ず指定すること。（携帯メールは不可。必ず添付文書が送れるメールアドレス）。連絡は原則として電子メールで行う。
- (3) 提出物 ①大会参加申込書（メール添付でも送信）ダウンロード
 ②選手登録用紙（メール添付でも送信）ダウンロード
 ③日本協会・競技者個人登録用紙（8月20日現在の競技者個人登録＝チーム控え＝）の写し
 ④スポーツ安全協会・加入依頼書の写し
- (4) 上記の①と②は、電子メールでも送信すること。

締切日	8月20日(木) 必着
郵送先	〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35 秩父宮ラグビー場 関東ラグビーフットボール協会クラブ委員会 電話：03-3423-4421 / FAX：03-3423-4619 メール：info@rugby.or.jp

*封筒の表書きに赤字で、＜関東学生クラブ選手権大会・参加申込書在中＞と表記すること。

＜大会の連絡担当者＞

協会事務所では問い合わせに対応しておりません。必ず下記担当者までご連絡ください。

＜大会全般＞ 関東協会クラブ委員会・総務 三宅裕泰 090-5820-5514